

幕張車両センターで労災死亡事故

現場の命と安全犠牲にするな

「現業廃止」・全面外注化を阻止しよう



J R・CTSに全責任がある

6月21日に幕張車両センターで外板清掃作業中に労働者が倒れて意識不明になり、その後亡くなりました。

J RからCTSに外注化されたこの業務は、CTSから秩父商会へ、さらに秩父商会からコンディショニンググリーンへと次々に外注化されました。しかも、当該労働者は「タイミー」で集められていました。

CTSは秩父商会からさらに外注化されていたことも、労働者確保のためにタイミーが使われていたことも知りませんでした。信じがたい無責任体制です。

この無責任体制―何重もの下請け構造とスキマバイトの労働者の犠牲は、J R・CTSがグルになり、徹底したコスト削減・要員削減を現場に強制したことで生み出されました。J R・CTSによる「殺人」です。

ところがCTSは「要員不足でない」「コスト削減されて

いない」と大ウソをついています。本当に許せません！

J R施策の必然的な結果

これはJ R東日本が進める「現業・非現業の区別をなくす」などの組織・人事賃金制度・労働条件の抜本的改悪、鉄道業務の全面外注化が何をもたらすかを最悪の形で示しています。

会社の利益を生むものだけが「価値がある」として、鉄道業務を徹底して軽んじていけば、こうしたことが引き起こされるのは必然です。

そもそもJ Rでさえ要員確保が困難になっています。それを下に下に丸投げしていけば、さらに労働者を集めることは困難になります。スキマバイトの利用は必然的な結果です。

そして、J R・グループ会社の仲間全体を「スキマバイト」のように扱い、現場の命を犠牲にして金儲けをしようというのが「現業廃止」であり、職名廃止・融合化攻撃であり、全面外注化攻撃です。

絶対に許せません。命と鉄道の安全を奪われるわけにはいきません。今こそ職場から声を上げ、闘いにたちあがろう。